



fu fu fu 幸せを感じたとき...

社会福祉法人しがらき会

信楽青年寮
ワークセンター紫香楽
しがらき地域生活支援センター
障がい者雇用・生活支援センター(甲賀)

《法人事務局》信楽青年寮内

TEL0748-82-0588 FAX0748-82-0961

URL <http://www.shigarakikai.or.jp> E-Mail shigaraki@miracle.ocn.ne.jp

地域共生型拠点ホーム「HALU」

開所しました！

令和3年5月1日、地域共生型拠点ホーム「HALU」が開所いたしました。このグループホームは、現在町内グループホームにお住まいの皆さんからの「ずっとホームで暮らしたい。ここ（今住んでいるホーム）で住めへんようになって、次もホームが良い！」の声がカタチになったものです。

しがらき会のグループホームでは初のバリアフリー構造の平屋建てとなっており、高齢になっても住み続けられるような造りとなっています。また、支援体制を充実することで、「HALU」入居者以外の「困った」にもカタチとして応える役割も担っています。加えて、在宅の方からの「ホームに住んでみたいなあ。体験してみたいなあ。」の声にもこたえられるよう、短期入所事業や相談支援事業も併設しております。



信楽では58年前に現在のグループホームの前身である「民間下宿」が開所されました。「地域福祉」という言葉もない時代から、半世紀以上も町の皆さんとともに障がいを持つ方たちとが町の中ではたらき暮らしてきた歴史があります。歳をとっても、時代が変わっても、変わらず町の中の暮らしをより一層安心して楽しめる、そのための地域支援の拠点として研鑽してまいりたいと考えております。今後とも皆様のご意見を始め、お力添えを切にお願いいたします。

住所：信楽町勅旨 2392-14 (紫香楽ヴィラ隣地)

☎ : 83-1666

(岩田 記)



短期入所 居室



相談支援事業所 うろむろ



2017年 台湾 高雄会場



「しがらきから吹いてくる風」
日本・台湾交流展十年目を迎えて
二〇一一年に初めて台湾、台北市で交流展を開催して早や十年目を迎えることになりました。当初は、当施設を利用して台湾の人たちが作られたもの（陶器や絵画作品）を台湾の人たちにも展示会を介して観ていただき、交流ができればという思いで始めました。
台湾の中華民国智障者家長總會（障がいのある人たちの親の会）と協力しながら二年ほどは台湾に作品を持っていき、台北市をはじめ、台中市、中南部の嘉義縣など色んな会場をお借りして台湾の作品も交え展示会を開催しました。その頃の台湾では障がいのある人たちは福祉施設で手厚く保護するというのが台湾の政策であり、作品を展示会で発表したり、ましてや海外旅行に行くなどというそんな習慣すらないような状況でありました。しかし、当法人が台湾で交流展を行い、利用者さんの作品を発表し、その際に利用者さん自身が展示会オープニングに合わせて台湾旅行に出かけたことにより、台湾の人たちの認識が変わり、台湾でも障がいのある人たちの作品が脚光を浴びるようになっていきました。その後、三年目からは日本の会場として滋賀県立陶芸の森信楽産業展示館をお借りし、日本と台湾を毎年交互に展示会を行って行っています。それからは、台湾の人たちが海外旅行として、陶芸の森でのオープニングに参加していたことが、昨年度に日本でも七回、台湾各地で十回、タイバンコクで一回、計十八回の展示会を数えました。台湾の方では市政府や行政等が会場を無償で提供してくださるなどのご支援により、お陰様で継続して展示会を開催することができています。

今後とも日本、台湾相互交流を行う中で、障がいのある人たちが少しでも社会参加し、活躍できる場を提供していきたいと思っています。
(石野 記)



信楽青年寮 だより

コロナウイルスの影響で青年寮の皆さんには外出の自粛や制限にご協力頂いています。六十五歳以上の皆さんはようやくコロナワクチンの二回目の接種が終わりしました。六十五歳未満の方のワクチン接種はまだ終わっていませんが、すべての方のワクチン接種が無事に終わり、世間のコロナ感染が落ち着いた後には、以前のように町内の皆様と交流を深めたいと思いますので宜しくお願い致します。
(古谷 記)

「夕涼み会」実施のご報告

今年も毎年恒例の夕涼み会を七月九日に開催しました。昨年に引き続き、コロナウイルスの感染拡大予防の観点から、施設内での開催となりました。当日は長梅雨の影響で雨模様でしたが、次第に晴れ間が垣間見え、屋外で打ち上げ花火を楽しむことが出来ました。
(小川 記)



「納涼盆踊り大会」中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染症予防に伴い、今年も納涼盆踊り大会は中止させて頂きます。来年は皆様と楽しい時間を過ごせることを願っております。

常勤職員・パート職員 募集中です!!

しがらき会では職員を募集しております。年齢、性別、資格などはご相談に応じて対応させていただきます。

障がい者福祉に興味のある方は、お電話ください。お持ちしております。

職種 .. 支援員・ヘルパー・調理員・看護師・世話人・送迎運転手

連絡先 .. しがらき会法人事務局(信楽青年寮内)

担当 .. 中井・岩永

ワークセンター紫香樂より

こんにちは

ワークセンター紫香樂では、楮を使った和紙や間伐材を使った和紙を手漉きしております。今回はワークセンター紫香樂の商品に手ふれられる「委託先」を紹介いたします。まず一つめは最近リニューアルされました「滋賀県立美術館」です。小さいお子様からご年配まで楽しめる美術館へと新しくなっています。その変化していく美術館に聞かれることが、ワークセンター紫香樂にとっても大きな機会になります。商品を作る過程を楽しみながら、利用者さんの変化と共に作ってきた商品を良いと思って頂いた方に手に取ってもらうことができる場所、興味がなかった方にも「あれっ！」と興味を持ってもらえる機会になることを期待して胸を膨らませています。



BIRD ORIGIN

次は、お客様から多く声を頂けるお店でもある『BIRD ORIGIN』さん(水口町)と『HANBEY』さん(甲南町)です。どちらも幅広い年齢層の方からのファンが多く、店内には季節の花が飾られ、四季折々を感じる事ができるお店です。OPENの日には、どちらのお店もお客様で賑わっており趣のある店舗構造です。お店に一歩足を踏み入れると、心が動かされる商品の数々にオーナーの趣味の良さが秀でていて感じます。そのオーナーからワークセンター紫香樂の商品の良さを理解して頂ける嬉しさに心が弾みます。



HANBEY

これまで、商品作りには試行錯誤してきました。利用者さん自身の高齢化に、今まで出来ていたことができなくなった現実と向き合う利用者さんと支援者。この高齢化問題は、障害があってもなくてもあることだと思えます。気持ちはいつも若いまま。若い頃より出来ない自分を認めていく勇氣。そんな時代の変化と共に和紙も変化し続けてきた今、和紙商品は利用者さん主体で作られることは変わりません。その商品が色んな店に繋がって、お客様の手にふれて頂ける事ができるのは喜びです。味のある「紫香樂和紙」。ワークセンター紫香樂にしかない和紙。これからも手作りにこだわりの続き、皆様にご提供出来る新しい場所や機会を探していきます。

(桑原 記)



しがらき地域生活支援センター

だより

令和三年五月に地域生活支援の充実と安定を図る目的で地域共生型拠点機能+高齢障がいの方に対応した地域共生型拠点ホーム「HALU」が開所しました。



HALU エントランス



リビングスペース

それぞれの思いや希望で入居された皆様は、新しいホームが安心して暮らせる場所になるように、自室を自分の気に入るような空間に整えられます。以前使っていた家具や衣類や日用品をそのまま持って来られ、棚や衣装ケースをなじみのあるように配置される方、新しい自室にあう物を揃えて新しい自室の空間を作られる方などさまざまです。自分の物を自室に入れて使っていくプロセスはちよっとしたこだわりの思いや自分なりの思いや希望を「自分のお城」に実現することです。こうして



それぞれの方にとって安心して暮らせる場所を作ることが出来ます。安心して暮らすには他にも必要不可欠な要素はありますが、障がいのある方それぞれが自分にふさわしい生活の質を創造できることがどのようなカタチのホームでも重要なことだと思っております。しがらき地域生活支援センターでは、障がいがある方の生きにくさを支えるため、ご家族、職場、地域の方々、関係機関と連携して、『本人自身が思い描く暮らし』の支援に取り組んでいます。これからもみなさまのご理解、ご協力、ご指導の程、宜しくお願ひ致します。

(平井 記)

障がい者雇用・生活支援センター

(甲賀) だより

甲賀地域働き・暮らし応援センターでは、障害のある方々の「働く」こと「暮らす」ことを一体的にサポートし、その人らしく働き・暮らせる地域づくりに目指しています。また、関係機関との連携を強化していく中で、資源や制度を組み合わせながら「就労」と「生活」の支援の展開に努めているところであります。その制度のひとつであるジョブコーチ支援について、紹介させていただきます。

ジョブコーチ支援とは、障害のある方が円滑に職場に適応すること、職場定着を目的とし、ご本人と事業主の双方に対して、障害特性を踏まえた上で直接的かつ専門的な援助を実施する事業です。ご本人と事業主のニーズを踏まえ、支援計画を策定し、随時相談しながら、実施してまいります。障害のある方には、作業定着、人間関係を含めたコミュニケーションに関するサポート、体調管理などのフォローを、職場訪問や面談を通して行っています。また、企業に対しては、障害特性や理解に関する情報提供、雇用管理への助言(職務設定、職場環境、人的体制等)を行い、企業内外で障害のある方の就業を支える仕組みづくりを支援しています。

昨今の新型コロナウイルスの影響で、障害のある方のみならず、働き方にも変化があり、それに伴って就労支援の内容も多様化してきています。疲労やストレスのセルフケアに関する相談や、本人と企業とのコミュニケーションの円滑化を図る助言など、相談支援を中心とした支援が増加傾向にあります。一方で、障害者雇用の促進や定着意識の高い企業も増えてきているのが現状です。

そこで、当センターでは今年度、ジョブコーチ支援の推進と活動の強化を目指し、すでに支援開始に向けて、動き始めております。ご本人の働く力と事業主が支える(雇う)力を最大限に引き出す支援が、ジョブコーチには求められていると考えています。「地域の中で働きたい・暮らしたい」願いを叶えるべく、また近づけるように、それぞれに応じた支援のコーディネートを目指したいと思っております。

ジョブコーチ支援につきましては、要件等ございますので、詳細につきましては当センターまでお問い合わせ下さい。

(若永 記)

問い合わせ先

甲賀地域働き・暮らし応援センター
 0748(63)5830
 0748(70)0053

職員 コラム

私は、引越しを機に観葉植物、食器を集める事が趣味になりました。

観葉植物を家に置く事で家が明るくなりました。新芽が出ると喜びを感じるようになります。心が豊かになった気がします。

食器も以前まではこだわりもなく使える物を使っていたのですが、以前飛騨高山へ旅行に行った際に美濃焼きに出会い食器にはまるきっかけとなりました。信楽焼きが身近にある事でより一層お洒落な食器を揃えたい気持ちが大きくなりました。

観葉植物で気持ちを癒しつつ、お洒落な食器で食事を楽しんでいます。(O・E 記)

ダブルクリツク

しがらき会に勤務をして十二年目、自分自身を振り返る。あの頃から私は成長することができているのか、自分自身と向き合い、利用者の方としっかり向き合うことができているのか：色々なことを考える。作業を通して利用者の方の支援について、たくさん学んだ。

仕事に対する姿勢、仕事を通してどんな希望があるのか、それぞれのニーズは異なる。ニーズに対してどのように実現していくのか、日々迷いながら利用者の最善を考え支援を行う。勤務をして十一年目、介護福祉士の資格を取得し、作業所から居宅介護事業所に異動となる。ホームヘルプ事業を通してどんな支援ができるのか。日中の毎日の支援から場面での支援。利用者の方を「見る」という視点は、背景や状況、希望等、より広い視点を持って情報を集め考察し、共有を行いながら支援を行う必要がある。これからもより広い視野を持って経験を積み重ねていきたいと思う。

(U・Y 記)